12
881
7

東京都立中央図書館蔵

東京都立中央図書館蔵

末摘花　若紫巻

巻乃名の事　并新朝とゝ名やせると

あつてしきることゝいふすゝに行ゝこれ末摘花と神くゝみれん

宋　代巻ハ乃日乃後堅乃巻也乃紫みそ源氏十七乃巻乃三

月ゝゝとゝをまてのゝるゝとゝ乃りゝ代生ハ十七乃巻の三月ゝゝと

十八乃巻乃巻の初まてのゝことゝとゝるゝとゝゝれゝゝゝ乃紫ゝ

ゝゝゝゝ乃ゝゝ紙ゝゝゝ新ゝゝゝゝゝゝ乃ゝゝ末摘

花いとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ乃花ゝ末

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

思へとも為ぬ人のうらやましく
と年月をへ侍りしかとも　細　此歌端書
の歌端とおなしくは此歌の
出たる歌の
此巻は夕顔上と云
元ゆゑ人とも
源氏は思ひのあるよりも
しつ
橋ちかく耳とめ給
ゆゑ
此巻は夕顔
歌場の
しるひは出給
きのうちとはなほ
此巻は夕顔
此巻は夕顔
此巻は夕顔

宗 花ちる乃桃の引ちと家に来あそ所流よりう家
の陰ハ紫式とつまる三条御へ行つぬ前のまとく人物
ちゝいとむと八葵てと清見とのあ清ゝそひ成ゝ
前ちゝあつゝるとゝ義よみる物あうそひゝく宗ら物
いそとくゝ花ちはこをるく 宗 夕新乃るとの物也
いとらうをあゝん人のはゝまゝさ事ちゝんとつまて
しゝれと 細 加賀乃ん也帝本をと面松の物ゝちとうう
行ゝ光氏也
ちるとはゝに物はゝやられとうゆへはさて学ゆるわちう
を清乃てゝまう物をあゝ成るれて
古 ちるとをゝに清ゝるる花乃ハ立ぬしん人みゝゝぬ世てゝしまゝれ
細 いゝるゝ人をゝれと物はをや末橋乃ゝるひ光ちんをめや
ちゝくゝやを行ゝるゝちゝれ物ひをあゝちとにそそ

細 原よる引をやをとゝる紙ちを 宗 ゝ面をちる花とや日
しゝゝる新也
ひとゝゝちとをとはのゝう物めゝるに 宗 清ゝ人とうゝう
物事ゝり
ゝ引をゝゝをとてゝれ立ゝる花行をくゝゝるまゝ花そ
宗 やてゝるひをやをゝ花をめゝるれてんみゝくをを行ゝぬとや
いとめゝれをゝや 細 ゝるゝ地詳して立也
はをゝる心はゝ花をををゝ人物ゝうゝるゝをとゝゝるくゝまめ
やゝをゝるとはゝるとゝ物の花をゝくゝぬやゝに清ゝくしををくし
をて花乃物ゝゝ行とをて 細 原乃一度物ゝるとの物ゝく
を人ゝをとををての物ゝゝる花ゝの人ゝをとゝゝ人ゝ行ゝ
ひ行をゝゝるゝ乃ゝゝの心ゝれゝゝるゝとゝ也 宗 はゝゝゝゝに
はをゝゝとはゝゝるとゝ人乃ゝ際を物ゝやゝゝみゝくゝゝゝゝり

しきそとも又ちりぬるを思へばさやうみてくとたてたさ
あともあくるのつゆはれるを人なるひさをもひとをとるとをは
ちりそれしの給さはとをも宮人とはくるる給をとるくを
たゆれて世人は宮るやをも
あはくしきさうたちくまうをとをもをもわれの給さ
しつるもはほうをあり　元　あしのはひちるんも
うちうつをんとをもくれをしさ　元　よのはひちるんも
細　を蜂八十句の後ちるも　けは悪沼をまるを地をとをとちつめ
てちくくのをとをも
萩の露をさをとをへさ風のををとあるを時をはとちつ給お
ひをしはるへ　元　夕影をに露人おねうををひをみをる
　　宋　折をの萩ちるを
後撰　秋風の吹をはををとをとつぬ小萩の露をくくはをはを

はちをのををれをちをくくちををを

如法にあてゝ文のはしめにとこ二人はうちむこ後母と一人は大
弟乃ゝ孫とゝ也ゝ乃ゝ孫ゝ也ゝ乃ゝ孫ゝ也ゝ乃ゝ孫

むかし磐石をくだいて八眉とひらける心也潛龍と云と潛
龍伏して飛ぶる時也周易に潛竜勿用何謂也子曰龍德
而隱者也と云り　細　潛乃字也かくのごとく
はくさうのるとものこゝろにかくれる細さるべくこと
　宋　もとつむとうんあるにしたがてさひくまつりとうつ也
ふむとそとをつくさうこんとゝいふるを学あれこ
　宋　東摘乃あ〜さ摘とゝいつてゝとをつくるとを引出る
　也宋乃ん也
みのの女ゝくゝ毋一くさやうてほんとて我はさうをよ
ちくみとろ
　河　今日小窓下　自四何所為　欣然得三友
三友者為誰　琴羅漢琴酒　酒罷取吟詩
三友遞相引　隨環無已時　一彈恬中心

一詠陽四友　猶想中有間　以酔詠繼之白氏文集
酒乃友也　元同一動也　河海はんこゝろと
　細　楽天小窓三友琴詩酒也但詩八唐乃奇ちれてもを作ん
ゝるるへきにあゝもとゝてほゝんの一樣を酒と云と
ゝ乃ゝとみはあるとゝ作りほ海詩乃ゝもやうこと但酒の事
ゝ可ゝ也詩八ものゝれゝんみとはきるゝゝちるふ
や　琴同　宋源氏乃詩也
さやうのゝゝにてとゝつゝて物ゝゝれゝとゝるゝゝの
ほはゝひゝきをほゝゝゝ也思ゝ　宋文はゝれ也
乃きをんゝくまゝゝもを八東摘とゝゝゝあるてのゝ
つゝひゝるとハんゝくゝさとゝも
さやうにゝゝゝめもとゝるとみゝて物ゝゝゝやゝんとゝ
ゝ　細　命細乃詩

いくさもきこえぬやこのはるかりの月ぬる
細　源の河　宗　拾遺　ゆくえ　云々
あひくに拾ひんとてとのの行へをたづねてとうと
ちわくるものとやうれるまの波まくにまりてぬちて
のたゝ嶋乃えハはるふそもこ節る　宗　源氏語出ひらん先
命婦さくへまうれと也
ちくみをけくそうひ節る　孔　宗大嶋未橋乃ちくへ役
あるへうや　宗　命父の所へ付く宮也
命婦ハまく毎乃ひるをとハもこをつる　孔　宗大嶋の
たゝ嶋つのめれと乃場もつへうる事ハ命婦ゆるをハ絶毎也
姫君のあるをとをもつひてちくにまくる新ちり節
宗　末橋とくくゝ乃ヤて命婦和こ事也
の行くをちるく　細　源の事くの行くをもくひ也

ゆきまひの月おくてきはとにおりてくるると　宗　二月十
日ちくるとを源清明也
いとかくいくくれわさくれものをもしへをれ乃ちま
みをゆくさめるみと宮ゆまとれあるをにわくるとてた
ひと色ちくり宮くまをしるくをくん行くくる
乃れとの行へを　いとかくくくれ　細　命婦の和
ちり姫乃くくちとくそ物のをもをくを物とて
ハはくるれくくとれなるをにヤ也　宗　命婦ゆめいるく
をくを新との和也
おくをあるをくこにをへをてくるめくくくをる
くををへと　細　内とのをへや命婦我屑をとたるへ
宗　命婦常に来くくをまに歌くをれ公者とハくく
をん屋をくるとをれハ　細　末橋のまくふくくへ命婦の来也

まさくしとはれてゝ梅の香わりてさとんふるさゝてはし
ゆふかれはりうれとゝひくく　宗ゝ　ゝもわりさて居う
あゝゝゝゝゝ云幻也
はゝとのねりゝみゝはりゝ伊ゝゝんとゝ行人らるゝうのをゝひ
よはうゝれ伊ゝてゝん　細　命婦ゝ中也
ゝはゝてゝゝしきゝてゝるとにゝゝをゝゝゝぬゝてゝゝちわゝ
ゝれとゝゝゝ　宗　禁中へ乃出入よ元就て伝契れ者とも笑
ゝゝゝゝゝぬゝ口はゝとゝ也命婦ゝ同也
ゝゝゝはゝれゝるゝゝてゝハあゝゝれ　細　末摘の同
はゝゝ
契の者と笑ゝるゝのあゝゝてゝゝゝゝゝ

白ゐ石原乃はんや
さくらもとの人のゆめ〳〵うつゝをく　細　原のんや板常陸家
のはるのもとゝ乃はや
うつさせたまへるもとをんなの物ものゝこゝろ
ゆゝしくふかくもの思ひ給へるとも名ゐ物ものゝ
ありさま　栄　俊房うゐ侍ら遣官ゐられとも名ゐ物ものゝ
やはとてうゐ遣官ゐるやとゝうゐ遣生の宿とゐうんゐ
ゐやうれとゝろにてそハ若物語ゐ物ものゝ
遣ものとゝひはゝをてものやゝひゝ〳〵まゝと弟ゐをとうゐは
ゐるやゐ侍ゐんとんゝうゐ〳〵ゐてやもゝひ侍　元うゐか
のゝゝゐをうもをめ中ゐ大ゐ母や事ゐ彼女ゐ女の辛母ゐれ
ゐ女一人侍ゐあれゝ宿ゐ物ゐ侍ゐ物ゐて只寝屋ゐゐ
ゐあゐ侍ゐゐ曹の侍ゐ物ゐ物ゐ物ゐ物ゐ物ゐ物ゐ
ゐて侍ゐ家ゐまゐて侍ゐ家の家ゐゐ侍ゐこゐ

ゐ〳〵侍ゐゐ物ゐゐ人ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
本ゐゐのゐ物ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐ〳〵のゐ〳〵ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

はかりこんはてをるる紙ちるもしんこひやこまて
出さうみとはさき色なる濃菫生ひとるとをもしんへとそこ
細 花るうなの敷花ゆめのるもとをるとて紙紙色よこの
さるへこもを式部をるへ御同大うるるをを
うるるしやを
命婦とある紙みくてこうをうてあしとをきれ
をうるるをうにをへり 宗 んはうひはるへみくさのこ御
ををひをやさるをるるをうをいをくひさ弱様を
まうこのをんとはうはるいをうひうみをしをうこ心乃
をうに と 細 やうにるをとをるて弱
宗 命婦うへ客への来るを宮をしとをやて法和とをうを
をうくしをはを宮へとをふやうにをうへはとに
ををををとをしはやををををををみうへし

みうをしうるとあんとて 宗 やうて為てなをゆんのんを
をうこうをこのうはくうるうれを 宗 法琴ををうを
をををををををを
をうくをるはとみうをやをめうれまをうをうはとあを
あをて御をこうをの法をうをき 細 源氏源の法和をこはんを
をるうをと命婦のをを
御をうをと法はををるを 宗 源の氏乃をうを命婦をうをて宮琴
ををうくはををををを思ををるへし
御をれをくはををうれはをのをうをををををををの法をを
源乃氏
はをうををてををへて 細 命婦うんはうひを
はてをやはををひうをるをををうにをひををて心をるををを
のをを法をるををうををれをを婦をやををへは 細 命婦うを

宋 命婦の義なる也 源の清和よりをちたる人のたちさく者
さもとよりの給へしうやうに出みて父子ともとられて思
ふ子なくおはしまいけるやうにうちつきに源とつ出く
給へるをうらやましく八姫君のうしろめたやうにおぼしめさむ
とうへしたのん歌へ
世に清和の源の人もうちつけてうらやましき人
のさまなるかな 宋 花 夢みさまのうら命婦
常陸の姫君乃清和のもとうるはしと源氏のをみを清和
の事ゆゑ心ばせもうらやましきと八清和とうるはしとの
清和の御方をおぼしあはせるに命婦乃
しきはるはしきうるはしさやうなるもこはのうにうるはしと
命婦とうるはしき給也 細 さやうにをくへうるはしある
はしさと命婦乃ゆとをとうるはしき給也 宋 源の清和也

世に清和あるこうるはしく八命婦の姫宮の清和を後ゆと源乃を
ゆさをあるるのとんに姫給和也やうにみをうにうるはしく
さむを清和をうへうるはしをうるはしく八宮みてまうらはしとを
義は姫君さるうへの清和なれし 細 故常陸乃の清和乃
代さやうのをしさと清のあるをとうるはしき給 細 ひとうるはし
せをあり
又ならるるとあるるやはうへうるはしと思うるうるはし 細 源乃又
と姫君給ものあるうれさ給也 宋 慶 に源之食すちを
ゆせとて又姫君給うるはしうるはしうるはしき給也
うへのうめにおはしまいけるとまてちやうゆうるはしを給てそわし
うるはしうるはしうるはしうるはしの清和をうるはしうて
うるはしうるはしつきうへと中あれハ 細 命婦の何源の宮はうる
りまいけをと内裏より給ありとゆゆうるも 宋 たるの源

とも　ものにすれたる人ともてあけうひ給てとよ見給ぬ
とよあり　まことの命婦の細やうに聞つれ行てあ
つまを給とは給へしはるるたとともみて八とゆ也
きもちろうるとうつるとく　細　源のしたしろの給也
たとんのいそんやうにとろあ　あるくされそれとはるくし
きあるまひとりそく女のあるさ面らそうんとの給へて
元　命婦八法のものとるれしかくの給也　細　そくしても
はるれようゆ也　宗　色とあるさるといそく女のあるはるく
給へうんとの給へ八命婦ゆ給ことうやうの給とて
つしをそて物をつるとと給へて　物とも也
はまるとこめへるるとと給へて　わるとくうの給とろ
とこて物をつるひ　細　命婦うの給也
うん度のうひんのをうひをくやうゆやと給りてやとう

立ひて給へ　宗　源氏をうしをとんの女とのんはひし給
し立ひ給也
もいんのたくもそう　堪のうるとを給かれのうたたうう
給よもとうるをそそ原はとそはうあるとをれあるんを
たるもとうあり　あるとと給へて　宗　作るとあてもとう
をる墻をうへしわありうあるを彼をあの恋うる様とうう
ものをたつをて立うれ給へはとうのゆ給あるとあり
宗　月のうしたたうれ給也
ひタ給うちうるもうるにうて作あるやうて大慶に
もううもと二条院ゆをあして引とうれ給あるとうつうあう
んをたくあて親をゆううあれとはとたつうてううひ
あると　宗　仮中おんを也
あやしさひうたるとうあるとれあやうるみううさうれて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大内ごとに葉大内山は仁和寺のみかどとなりに内裏
のやまとはいとあはれなり　細　内裏とかくはかりうちやとよめり
源雅改を大内ちゅう護乃武士みくに三位とのそうしゃに
大内の山ちかはとうあり　細　内裏のやまとはいとあはれなり
遠ちかくはいとあはれなりけるひの月かくさはるとあり
十六日の月とりのなるうやはりけるかな　細　大内山なる
みくにもはるとこと宮つくはそくに禁中とさしたる
なかはいとさうしの月とかはるとあり　宗　大内山は仁和寺に
ちかくとりうれば兵禁中れととりつ入るさんをぬやそ
ゆひ殺なよりうそ紙をはさねと云中もつさうひ
とはナ六日のかはりのうそくあるうやはりつる
さうくはるとはくきれとはうんとは月はとうはくうる
つるぬんのうひうくぬるはうくむく　宗　はとと　細　はとはかは

やまはんとはかはも
里わるぬ月とはみまとはゆくはのはるさの山とはうそはかはは
里　宗　里とうぬはのえんとはうそはうそうの入さの山まくをは
ゆるくんとはるはよはうとはくうぬしくむんとはそくはる
細　而白雪月とはるくんはあるそれとはるれはりはちるさはかはとは
とはるうまはとはは源雅中はのうはははあるさまはるさ
つるを思まを雅つり　宗　はけくの星をはすは月をみ
はをはいるはの山まはは八月はは雅をを中はの雅あるはうはは
はは月くむんはあるは入さの山とははるはは月は八山廟は
かはうはるひあるはうはくはしはりはるはとはるはうはの山
はりるに　宗　はるはは中はの初は陸奥は道路はるは
ゆにはるはうはるはるはるはものは　宗　源の雅初はうはうはは
中はるはるはるはくはひはりはるはくはひはりはるはくはは

きりさやの絵也

きんきんくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さとめとうち出て引きたるも

中務の宮　細　菱とる袖にこうばしうもあるかな

わさとにはそくひきかけ　孔ひとしとえてるかな

はのえんにをたるともてそれまてそこのむけうるほを

しきれたるつしきとくこうひさかきぬとのつくく

きたるて　細　所中ねのんをきとはまてらるれて源よん

とくもるかをもそくをたるかさに源のうも

大宮ちもうはしくはやりぬられもはもりくも

くをもたにちしてをさまりをたるもかくく

大宮　細　菱とる毎宮もとそれをこちんとさはうにんはくく

をくてんをくぬかるもの　源氏一向まんをぬ

たひをくれるると　細　中務のえのんも　源氏一向まんをぬ

かるあくんはすくちかくぬとも　宋中務れえのん

あり源氏をとを一向まんをぬかるもとにもとうと

をにちをくにんはうくさとも

君達をあり源氏をんの祝儀たり　いてくををるはうさまを

のにちをとをやくるをて　細　来橘の琴

のちをも　宋源氏所中ねのをもあんのんをいろ

にくをちくにいとかくく　宋　所中ねのくねくをの日と思た

新紫

ねうををんのにくを年月をとうをひわくんの時にんををくく

ねうくうんにるをくをんにをてにくをるをやわくく

海をにちをはくくんにを　宋　光を所中

ねのんをを一院可祝人のんををくをを年月と後に遂て

わくくんをにを後くくを出てあくを世にのんをて

あをはうれて我んをあくくんをにのんをくをもくく

[illegible]

いとおもしろくはの侍るべしとあ

まりのちのやうにて

こゝろえのうるはしきさまにあらぬ侍と 宗 源のうるはしを侍

中ねのゝ心也

[illegible]やとあるべきあやうきをも

[illegible]はもくしは侍てんやとあるべ

侍り 宗 [illegible]二枝の葉にもあつるれとあつるべ也

[illegible]中ねのゝ也

そのうちにあるべきうれをとゝ[illegible]やと侍へし 元 赤橋の

[illegible]源氏と侍中をとゝはらしをれとうの道をみる

[illegible]は侍にたゝ塔[illegible]侍へし 細 [illegible]也

[illegible]とみえ侍[illegible]やまし[illegible]

細 加様[illegible]侍[illegible]へ

[illegible]侍へ[illegible]

[illegible]侍也

あまりうるはしきをもとゝ[illegible]侍也

[illegible]侍[illegible]

[illegible]侍[illegible]

[illegible]侍[illegible]

ゆゑ　はいてくしさとんも切にそつかとみさん
ひとりたうるる枝よりはゆるゝも待遊処有家の美な
と飛出るとはんも言声と遊処みくらきを時系り
心と美せしるやに切ゆるや美とあるとをいる
生渡也
迷人の色てやそ結ぬ木ゆくもの色てる月はつやんん
よりすめそちしこそそちくてやこうとこまて
被て　迷いの色てて行ぬ　細　源と仮中ねとの法あるゝ
ちくくのゑ一月んはつやん月にすこそに
光　見八中ねの間也うすむるとハどんとはのあるゝ也
細　人の色てうちたとは中ねの間はも　系　来猶うとをうり
八ちはとと源人為はるも中ねを心月にはうたされ失
迷はをもちくくうとあをれたやと張とも

されてよりひとるとにあるゝをやをはるをまれて
細　源のんも仕くハ法中ねもゝ人をやをと張とも
光　見八源の心和也
ゆさうんとしと思ひをやみるとるとうとへ行と
細　我をうんとおもうねハうんはるうも無源のわはく
也の法也恒よゝとうんとをみさ新ともさらくせハ
の法をぬ也而白和也　系　あれうちふれてるを法はんと
要張をぬ狂法法せぬとも也いやくむとくをひとも
ふ光　中ねのんも源氏のいさみん
也とをひをを也の法ゝとをやをるをうん法をを法
ちての法とをして中ねはくハんはるとてをくをを
者ちと移くをるも　尋　源のあをくらんのやうれ也
をひとうん法ゝやうるれも　細　法中ねのんも加仮ゝ源

のの字は源氏の物語の
天人かりうしと思ふ人ぬらとのうあさをるれとと
をとひあり給ひみしとかうこれ中ねのひあり
宗源氏の物語我をうはとみるをいまあよ結白みる
ちとあをれはとのつくをさまくに成給つ中
ねのつひはをとへたはくとひくこそるをきも
せめをもをとを赤橋のまてりうりて秋るのとをて
あをんうれてくきとも
をイ
まんーをれくいひをれくんかさにてをるをんう
宗
まんをるは錬や錬磨をるちとを心やちをとねんも
細
をてを行中ねはをるをへをさやーのくふて心ひく
ををれとも
ををるをみく 細源の姫はうくまてをを行ひとるを行中

ねをとはをくをーのんはくとも
もとの事をとをひをるちくんをーさくそう物ーう
物へをれやを行ーあ れ源氏物中をとんをるれはくあるれ
今姫をとをめやをにうくくひ行 宗あるをとをまくくをる
つをうくとはをまをも中ねをものをくをのんを今姫を
くくくひ行也
物をひくれくをまてをるれある話をくをちをんいをんをを
をををくくしをかをにうくをひををををくあくあををと
をををくはをうをんくはくをあ物を 細をををを源の河
宗我人を類行をををあをををををくくしをんくてをを
ををををををくくをを物ををとの行や源氏をん
みしくはををををとをも
人のくのをやをれるををとくていををををのくをををん

元 人の心とは女のんとこそ思ひとうに成て男のあやまち
に成るものあるも世にたぐひとそとの行や
とのつゝわりはやまちみとありぬへきんのとらしてあや
まりうしれまてあひうひうまもるもあるんやとうんん
をちるくあんらうたうへきふとの行へも 笑わやとと
いのうんとやくしてうしひるるとちとのあるうちは中
くまに摘のやうにひとうとちとうて行てあるへんやとく
て行うたうへきと命婦よの行や
そやさやに 細 命婦の初をは時くれはゆてちとの行
一 言伝たうといふくとも
行くさうれ行うさやとうたにきうまやと 河 伊毛可
可度を案可可度中と夜文可祢天也和可由可
波は幻可方乃は幻可方乃安知毛可帝良奈案ずきて

元 たとたあ面やとう可方やとうとて未ずらんまてたとさ
伝 信馬楽 妹つ
はさあをきにてそんとう行き 笑 行うさやとうとちとりい
ひうう行ちんいつさあうへきとも命婦の初也
ひとんはるんいとうとちひさうとちるかさうとあうとう
うものう行へうるんとみるあうりけうるうとやの
笑 命婦の初や末摘の花とうとう酔の行さはやきた
うひもとうれとも
行うくしうとめさうんいはあうさなるまいとこあうくうれ
元 命婦の云初みうくけうくそうれとあはのうとの行
細 かうとんの行やこあうくきいはうさあうまうくさんや
原の心やとくとうとて行や 笑 原の行初やとう

しきたりのさまとてうるはしきかたちなり
わるくもやさしくもうるはしい　河　あるいは奏姫同じけり　横笛はよ
みくらと　細　あるいは宮中の姫と同じけり
人きまぬ物なりひのまされる法師のまゐりてやうにて　細　有重よ遂
をうるはしのうるはしきけうなる物つきて
殆しうはひとやうの物成へし　系　有重と云ひ
うをなをまされみと法師のいとなうらうをなる
うれをあるのとともにかくみつきてきくうるしけへも
しうはしかくまさにかのうるはきもくやうなる
をとたれなりけるのくあまはらけんやまうう
元　又始よりをうて多四乃宿のうりと云也　細　夕新上の一間
忌て成也
まうをてはやまりれ法師へうかくかく命婦とせあるか

系　法中ねとはくくそひてこれなとまをくとれは源氏乃法也
いうるのやうていとうれくらをそまくくまくくねとてあくとわりひ
ての法へて　細　源の心也うやうは遂るれハうれる物うこと也
系　源氏の法領也はくくたるるのまれくうのるのはくへし
殆なてうやうみをあるうて源氏のとる者たるへのか様
下はまちをさハまるまるをくくねとてあくとわりひ
はくくと思く　細　命婦也　系　命婦うへ領也源氏のかれよ
心合うるとはくくれちてみけりあるを姫えハこはくくね
とと只法へのはをなくへるとと思くくをあそさぬによ
つてかくつれなれやこれをかをとうるも
まてくれまてみをるれはるをくくとはるもをはくくもてそく
はるるのはのはくまへうるれよ　細　命婦の領はくくう
つきたくれるるとを思はくくねとあまりにはのはくく

なし　孫故とも

てとゝ[illegible]ゝて孫[illegible]ちん[illegible]孫[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

元　ゝゝのはゝゝゝ

とちりくしさうひ并　ぶにさうれきつてよちるくへそせ
そうるとゆのくへて　ぶにおくりさとうあくうの絡ほうれハ
元　命婦り源氏のたくるとんるとつ事せ一度さうる絡つるとと
ふ絡さぬくをのれりてまんるせ　宗　前るを清つむの清り
るとゆくくゆ　ゆくる河ほ寄庭のたくるのすふるまうを
ていりんてうくつさ絡くはしとめんぶそくて移ふ絡さ
絡とれのはりてにくるるとゆくくをれとあうそれり
とふ絡りてであ絡つるせ上のくりるとゆりをそ
たくるのやうにゆう絡とふくて耳ととめてくるありめて
一度ゆう絡るりと八一回ふ絡くぬるをのつき絡はんるせ
まくふたりくしさうひるるとにくれさはりてみとうく
るをまつひう絡るりと初て清出ることとひ出るるせ
あくるりてくくりくりめたるとともあくぬとるりくたるみち

ゆきにてとれりてさうとやうくんちると思くれとえのうりまめ
やくにの絡りてにくられたくんとひくくしくるくくちみこあく
くあるれりるとにくにありうみてくる絡あくるりてとるひゆ
ゆるくくるとあくう寄るれまりてとハはくちくる絡くくとはを
くくあるに　宗　ゆうるとあるゆ出くるるゆと
くくうふありくくきはをくひれハ命婦りむくくふとのせ
宗　源のはり出るりるとりるゆ白ひくる絡ゆ
あくふ女房るるとと五くくまりをてるゆ絡くるとくのく
まれとはりさまりくはくくく

命婦はいとくちをしくぬるとうくんわるよりもてにやすくなりてんほと
宗 可然附ふみとしるしたんも
はんなはうくはきたくとやこんねりしみたるくるとみを
わりてくようんとうあるをくれ人なりると 宗 源氏の行は
しみつくはいやこなりてんとも みてはんとまりてやそ
しうきんとうしるくんとあくしとも
あるめくるやるきうろまうきうろ思ひく 宗 やきこのんとも
色別命婦はんきやきんとみうう命婦うんも
ちきこたとうるるうるとうはいたりあると 細 父の君ア
大輔みきいひはきをくれ秘心一ようきうるも
八月廿五日ようひきく新まてまうくはのんもとうたう
はりうえうるきやをく
行方知
きこんのきみれうう あてたまうるはうあくうれいに

宗 ていはあまうきとうひくんをはとてまうるく
うきうとりんも
松乃まはすはたはのとんはうきそいりみをのうるうるとて
宗 古宮のさ海也
うちうるくうるとく孫 宗 未備乃やうとうう父うみうるうると絵也
いとうくれはうとうくはとうくはやきうきこやはうくうくいうは
あくはりくうくうとはやうくつそあれうるくりうくのはとうを
まくはりうるうはよきんそくのうきれてはのうにうくるし
孫はとまきうはあくも 宗 命婦う源氏へ可然附ふとては
又とうはくをあるも
とこ節うきうはうくるをくつをやとみくれある四よ
きんもとうるく思ひくは 細 命婦の人 宗 命婦う未備の陽人乃
ちとんうくあひくくとうたる孫と付うこんとのんも

[illegible]

[illegible]

[illegible]

をしめんも　細　命婦の君　宗　命婦の心ばせとられたるあは
れとのみ辞退やまるるとやいやがやまの君ことこと
いとへ中のたてたるをとわびもうしるとけてはさるん
との給　細　乗ちとはうのてたるをやあるはさやうにて
はるるん中也　宗　源氏はいとへ中をてきく源氏の浮舟
とこををのしてきく給りんとも給ふの舟也
とのこるんとはるんるる給ちん　宗　命婦の舟也ろんちとり
源おりまさんをひんちるれとも
とたちく　はるはよくしさんう
はるくしさはるまひるとはうとちるとはとくいひちる
て　宗　源のとして宗ちるとにはあんりひ給うとくやあるも
舟ちまれさちるちはし　細　おうちると安墨ちる一ちるる
年月　宗　拾伝堂也本ちるちと安墨ちる本ちり禁中に

をとうとうりまさきさちる房なるへし
てうくいとうよくはてはとぬりとれはくろいとつま
しもにおりりちとれとうやうのんよ物ちんんちとを受
よちうと給はさるとれは命婦のうりやとあうやうてとて
物給ものとをはめんちんをとうとをはうにはうとうてクさとひ
しあるはとありりりきんはうあるはうみあそこを給うは
ありさ舟とゆうしさまのよ思ものて　てうくいとうくさ
宗　命婦りアクをうひるとはりちうや
んはさくあうりうりうきはそそそうくはくろひやメ
ゆきはりくくをきるふのんをさうとあくてはりはやとこはと
つきをあはさ舟とうちきのひうりりはる　宗　源氏の浮
まうにはあんをまそとはをとはくろひうちるも
はをとひんうりうりて　河　嵐日本紀　刑　彰　表　礼

月たちぬ　人々　さまざまに　さてうちとあ
ふいとわりと　命婦は思へと　源氏うけてをはりまする
と　宮うちみて　月たちぬ　人々　さまざまに　をれてあるこしき
ものも　又　公曲　ふとけつり
そうちやをうちをれあるう
ハ月たちなり　給りと思ふ　細　高麗の人の　かけの　はとうの
歌　さいんやをとも　宋　赤橋の　はやうにまつ　ちはさ
うとは　源氏　月たち　給とを　さいんやをれとも
ワうはをとめ　なるはをちうをに　心うをを　さ人の　清物
をひやをうんちをやをうしはをひやをう　宋　常く　清僧
後　あれをかけ　をは　をを成　をれをも　をを　をを　をを
ひめをの　をを　をを　をを　思やをんと　思ふをを
をを　人の　をを　をを　細　天人　海や　さすう　宮乃　陽を

ちをれをとも　宋　文ふをを　ををうをを　をををを　をををを
源氏の　をををを　陽四也
をれをうをを　今やをの　河　左　礼　鑽也　宋　中くの　風流と
をうをを　はゆうをを　和ををを　をををを　をををを
うをををを　をををを　をををを　をををを　をををを
あをを　をを　ハ　をををを　をを　をを　をを　をを　をを
をををを　をををを　をををを　をををを　をを　をを　をを
をををを　をををを　をををを　をををを　をを　をを　をを
をををを　をををを　をををを　をををを　をを　をを　をを
河　衣　被　香　又　裏　被　香　於　瞬　切　悪衣也　裏　安意切　約　花　香　字　抄　云
擦　梅　檀　樹　葉　皮　春　節　為　香　故　云　葉　皮　又　裏　香　伝　云　衣
比　外　王　家　方　裏　衣　書　あ　ら　こ　れ　と　こ　ひ　ハ　書　と　云　一　三　薫
衣　書　の　一　名　一　云　を　を　る　て　花　の　名　也　ハ　花　こ　り　り　或　蓋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ようてそこらのんきと一ぢうもうみくそうにんようにそうけさあやぬき
たて（差）なる絵はくをうみうりて絵つきてこらめんるのを
後りをちむるハロとこらてぬいたぬと云をひつきてぬい
をぬるのハ海ちるとの論義乃時絵師（エシキ）ちうひとりハ威儀師（イギシ）
磬（ケイ）とおりあ〳〵もてそ後ハ論義とやむるをまち心すもうをす
おりを 細 義をふんてうやとうねつきてくめ（ちうれ）そくをこ
をあくやをれをハ又義をのハをれをを
小行法未摘ようりてやられとをにうひはくと云んを
宗 我ちんをうまつをぬハあやをれとのんみくを法代よ後
とを絵はくをとひくをまくをとをちひるをとる
それとをちあんことをさすをやハよめり
いとわうひあるこをのををにやもりうるぬと 宗 小行法の摘を
ありをくしをををるれをハりけくくして法氏へ

さをるを又めへハようををてすをこつひのあそうへある
摘をををををひを
んはてををあへぬやうにやのをるをハはををるをハあをへてをき
をををくをあつをしをに 細 未摘のをををと行をやうにいあへ
て只力つくへの行やをる行法をらひをへをるを行て未
摘のをへをれ何と法の学をを行てををやりれ
つをと学の行を 宗 ものをしををのを行をるをいを学をを
をやをををのんをとををへてをををれをををそを行
ををのをををるれをををををへをををををを代ををるをん
ををて未摘のをを行を
中へをををやをるわををれ 宗 めへへををを法をを海をへ
行へをや
いりをををををにををををををををををををををををををををををを

宗 源氏の哥やいとゝ哥きいてにたるやうくんぢ侍へと
をあまたゝとゝこめ侍末橋乃ぢんを源のゝるゝさ
とも 細 んをあゝとも 孔 源義ハ物也
花 んをゝ下行あのとれとゝ
をやゝやとゝれさゝのをゝ
みとの侍とゝるふのゝひをゝ 宗 源のぢんも物ゝさと
みさとゝとゝをゝさゝのとゝ
哥をけをとゝひをゝとも
けとゝゝ新をけゝゝく 細 源よるゝくゝをゝさのんある
うの石寄ゝをゝ侍ゝとんのゝひゝ侍るれあるゝゝも
とゝゝさとゝに物ゝ侍んをとゝ侍ゝゝてやとゝをゝあをて
ゝる侍ゝあり 宗 別り思んのゝ新ゝと侍ゝゝさとも
今海あれゝゝてゝゝあゝ侍ゝるやゝと物ゝゝれて

ゆ 少ゝんせさをあゝんも
ゝゝ侍ゝゝゝ物ゝゝゝ 宗 今海をゝる付休息
ゝをもゝゝ房ゝや
このゝゝんをゝゝゝせゝをゝゝひゝれ侍ゝさ海乃 宗 小行屋
ゝのゝ屋房やゝゝゝにてゝ
ゝとゝさゝにはゝゆゝゝゝゝてゝゝゝゝ

いとふかくおそれはばかれるうちにまことにあるべきのうちにつ
れなるやさまゆゑ殿ばらの御方たち　朱　源の左衛門の督の御方たち
　　後世也
ものをもおもひいとはしとおぼしたるさまなりけるをつきて
なほ心のままにもてなしうめるをもてうつくしうおぼえ給
いるをんなとめさせたるをもとりかへしたるに
とて法をくつたりともちてはくらべたるをやとしまひく
いて殿よりはじめてうちつれ行て　朱　源の人也
地もちなどいさとはしたんとみゆるまで行てと見給うち
なとはかりてなくもはかりまさりぬてはもとうめみてま
しるしうんてしぬとも
　　狂ひはゆるひてたせたるとてやはしつきて　朱　源の人也
あるべきはかりとたせたるとはんとまとをはかりを

そなるなせやとも
うちうちあるぬのほりはとんとるやそなはしまろ思ひ
をられてはかりをおもはせ中ねるさて　細　四位の右宮よりすぎ人
とんをもくはやをもつにはもをもたるまをもまをもまをもあり見
人うちるれをもたまをもはしてもまを
源乃性也　於宮をくあるまをもはしてもまを
はをもにはしめしをはをもたとんをるやも
をもれをはあをいるゆへはんうやをそ思ひへらるれと
ゆへはあるとは行て　朱　源中ね殉也ことのあれは殺ねとも
人やをもれひとるを殺のやをををく　細　源の殉
ゆるひよりやうちうとうとの殺へて　河　綾　朱　をををを殺
　　との殉也
ををまをてゆるまをあり　細　源中将の殉也まをとをを

つゐてあり　宗　大門うるはしくにらうたるとの河也
さうやとハ源のさひ行とう弟て出作と云ん也
朱雀院の行幸そうちんうくんまひんたるめ〳〵百へさう〳〵
うへうもをはしたるとと　花　花の宴参と同時樣の事也
細　あ宗みとしゆはあり同時也
おとくみとはくへやさむとてあんさうて作る　宗　既中ねの文
おとくうる也
やてうつうるとぬう作うといそう〳〵をられたたくそもろ
とをみとて　幸　さう作うて作まる也又源と同車し
て宗内し行つうやたて度つと出行〳〵作るさうや　宗　宗に
さうまうて作まうもとあれた源氏と同車し行く
おとくへわう行て行たくを海さに宗内し行とんろ
ようにん行ものとたりつゐひうくしし行とうを

源氏ようとうくに内へさうろと行くぬ成へしやうてう
つとうつぬ参作作せうとたうを成へし
行たうこうしつひ行つて　河　東坡詩注曰鞠則宮中之道士之
食粥於早時也
まうくうとみとも宗う行て　宗　既中ねのうる也
ひうきはをうれとひうつまうて　河　源既中車とはしぬ
うく同車でくまるる也　細　同車し行也　宗　車ハはる
人のとはをそれとうと同車みうく出行也それと一うう
たるうやハうう
れてと行てうをあうやとうめてう　細　菱参みも既中ね
の物語よれうるゆるとうる代のうる也　代　代下河同車
して内へ宗行るゆうんやて作まうとめへくやうう
しうるうとに大度へてうるうと行ひ又宗内とあう

しさはをしきとくつくもひてゝ
をとゝそのうゝはくまといとゝ
ものやうみとはくまをはゝ
しをやのある　元　雨もれハ出
や　宗　来橋へ清出ある人さと雨
時ぬ雨の月まりさとと思ひやま
細　ふはや　北　ふ伯法来橋
ゝちくにやめゝまく　宗
てはくとゝうさはてとゝ
ひゝくれのうれとゝをにゝ
ゝすゝにまつゝう　阿
ある有り元　公　八　同月也　和
ゝのゝうゝゝゝ也芝みゝを庚

北　芝のあくゝゝゝゝとゝ
ハはくゝゝ清ゝゝ
ゝゝる紙ゝゝ
中ゝくゝのゝゝちゝゝく　阿　中央ゝゝゝゝゝゝゝ
元　中ゝくゝハ中ゝゝゝゝゝゝゝ

細 ちくてとうてはるぬる也　宗　ちくてうえたみをとうて弱と
ぬさ毎を同さをとる也
いたにさてうんやまひやまをうしはうて弱すとうやし
ちとハうてひやあんさるをとてていはきん　仏 未橋のうえた
人乃さてうんをひうてやも
我ハたりとも心あうてうんとてあんやあはしもひたはうんとん
らしハ　細 源ハうをうとうてまし弱也　宗 源をうやしき
しく異合せをもうしうくとえみをうくをむはう弱しし
をてんとのはんとをもを末橋うた知弱ハひを弱弱ふを也
初を源乃はは心来を末橋のんをうて
うこうをうをうてうてあるけの弱あるる　細 源の性弱まをき
はんをとを来をねを弱弱を也
知をうをのうをてをうて仏ふひうを道をうて大度よたりし

もをうぬ弱幸れをとをうあるをやをりして見たちあ
つをうての弱ひをのくをまひをとをのくをひ弱をとをのうを
のをふををたゆくをのねをとをひうををみをうをうをう
ををうをくうをとをう　細 末橋のまへ乃はんをあるをうを
知をうにひうをまて大度よ出弱成へし　聖 仏同
思いの弱あををひあをうを　宗 弱幸をれて常をうをハをの弱也
大をひをうをたをうををうをれをあををうをの弱ハをうをを次あををうく
河大 畢（ヒツ）菓詠尺八長一尺八寸百四寸八分 律（リツ）書圖云大畢
菓小畢菓又云尺八為 短（スタン）苗（ナエ）玄宗皇帝（ケンソウクワウテイ）者（シヤ）身羅漢（シンラカン）也好
吹（ヒテ）尺八被擯（ヒン）出之（セ）　見高僧傳上　聖 とのせをうをとをあるひ
ちをさあをををを尺八をを笛をを一尺八寸みをく来笠用を
をを一部四巻一注　細 苦八今の世ハををとを大をるをを也
をををを

ゐ〜ゐたるとひかりてもと　元　礼記曰鐘鼓在庭琴瑟在
堂　匠喜四年三月廿四日覧二舞楽一　大臣以下公卿令推
太鼓陽明門打之　と楽太鼓ハ必堂下ゐ〜ゐ事也
但寛治五年五月廿五日賀上競馬六番之時場川院と
上自打太鼓給　以墨堂上也　宗　地下の楽人遊上ハ
てゐやくやうう
清いと飯ちゐたやうゐ〜　細　山ハ原の清ひ〜ちゐたう〜也
せちに物をゐてちゐとにてそ　宗　源氏の山いとまちゐたる
遊とはゐくゐりめすおちちゐ人清ゐあるとも
ぬとまいれ行へ　元　ゐとぬすして雅楽ゐ行ゐり　細　源切
ちゐゐ〜へて　ゐとぬすしやうゐ〜ゐひあり〜ゐ行へちり
　　細　ゐ〜ちゐたゐ清ゐとう〜ちゐやゐのんも
　　宗　清ゐ忘ありゐこのんも

うのわ〜ちゐたゐ〜ゐいとゐちゐけられて物ちゐたて物ちゐ
ち〜ひちゐてもたゆく行幸ちゐ〜ありて　宗　末橋の法
　　也物と云ぬれハふゐのこしゐ〜ちゐてゐ法也
ゐ〜ちゐとのゐ〜ゐ行て令推ハ〜ちゐる　宗　十月十日あまり
　　也ひり試楽ハあゐゐ乃試楽也
ひ〜ちゐとひ行ていとわ〜とゐおりゐ〜ち
　　宗　末橋乃清ちゐとい〜とわ〜とハおほゐ也
ありゐ飯ゐ〜て　宗　令推ハ源へ末橋乃ちゐ〜ゐ也
いとう〜ゐてゐ〜ゐれゐる法ん〜ハ　宗　令推ハ云ゐ也
ゐん行ちゐ人へ〜ゐ〜ちゐ〜ちゐと　宗　令推ハ我ゐ〜と人と云
ちゐゐぬ〜ちゐとゐ〜　細　源と令推ハ〜ゐ〜ちゐ也
心ゐ〜ゐゐゐて〜ゐ〜ゐ〜ゐんと思ひしゐゐ　宗　源の法也
令推ハ〜ん〜ゐ〜ゐ〜ゐ〜ゐ〜ゐ〜ゐ〜と日ん〜ゐ〜

殺さぬんの行末とも
そさいて者る心とも　は　繪　宋すゑつむのさ反とゐんあ〜
一　とゝ〜あるんとあくとも
このんれ者ゆ〜んと法へ如ゆ　宋　源の清んも人とハ命
物うるも
法ゝしこの物といてゝ物ゆ〜ゝ行ゝんさ反ゝひやり
行といと行〜ゝれゝ　宋　源の清心也
いとゝるれ者ゆやうゝるゆゝせゝちゆを八行ゝく
細　源の河　宋　行幸清ゝれ流とも
物ゝひゝ〜ゝあやゝちる心法ゝゝとゝゝゝむせゝゝゝゝゝゆく
ゝゝ行ゝる　細　あまりと来橋のはゝゝおゝゝしとゝゝ行ゝんゝ
め也　宋　源氏のゝやゝきての行也
わゝゝゝゝゝ

ものうれてまるとおろうあり　宗　物ゝたく之ゝてはり出たるゆゑ
ゆゑ　宗　末橋の物たちゝ紙ゝとあれうに汚染ゝあるゝ
ゆくと

けんこと思合ぬゆゑ

うちうをゝ見ゝさるゝをるやうとあるとゝてさるゝた
とくゝさにあやゝうゝ仕ぬゝあるゝやみてゝう郡ゆゑ
打もうをと　宗　ゝゝ可紙指紙ゝくゝとあるうゝのてさ
ゝうゝゝゝとくゝしゝれいあやゝさゝゝとあるうゝゆゑ
あゝやゝたゝうゝとゝるゝむゝとゝゝゝるゝゝしゝうゝをゝあるゝうゝあゝ
のほゝとやゝとゝゝうゝと行てゝゝゝのゝゝ仕ゝゝゝゝゝとゝ行ゝありゝされ
とゝみゝうゝゝゝ行ゝゝとあゝゝゝゝ
あゝさやゝたゝうゝとゝるゝゝさんゝを　宗　ゝゝうゝとゝいゝゝゝゆゑ
さゝれゝとゝゝゝゝゝ

細　行くゝあゝうゝるゝ仕ゝゝゆゑ

九丁ゝとゝゝくゝゝゝゝゝ

すみくをたるにたくさんをたるも 細 たるへさ通をとをく
はろかなれる様也 采 はるかなるうちにもはくろうをぬ様な
てふくてくんくらもまうてくはあるを脇也
きひくはさゆひつをあるきくはさくくるをあり
采 うくまのるも々新のきこどうくをあう
ちくくみくくとくをれてちくあるひくいつき に 作 陰脇安産
稽とさくるをかあ也をとを毎をのあるみくくわくく
こさ稲也 細 古稲也 和語脇の女房々繁ちをくをうう
稽とちくくさる也所祝因とくくれてをはをくいるとを
くまりくあるさ仮也
おいあるうくう 行 内裏坊 立大宿 孔とのたをつ也大内よ
ゑ者る元内裏乃宮女作所也 采 内裏坊若大内みく
はとをりしとも大宿とうう女房の宮々とくく年

ちるとあるくく細布とくうしてはとのあと云若代きはる也
内侍所の稽よりくははとものを 采 芝とちくさ女房とこのくう
ほとをあるすも宮えう乃稽稲々代あ多よ作るとを也
あ新きやとおくく 采 あるも也くやはてにとくも所祝はみ
ちるあり受庵ちとはきくくくあるまくはもちうと行うさ
くもてをとくくちをにちくうあるもちうくくあるくも
つをあう ひちくにせるある様とくをとんくあるくも 采 人乃に
まくくく新はもも源氏ちうをめをを様くく孫はとのんも
はくれさをもさむさをくくれ 采 ちくくをさむくを也
命ちうきれかくをせみとあるはあるくあるとくくをとあ
つを 河 荘々日寿則多摩 采 家の初よひんくくけて
故宮ありくまくしせをとくくくくも也ひくんかくくをのをお
くくををくく新はあるくあるとくくをとくくをとくくをくくくくを

ありさまなどに人のうちさうもとう給へあるをさ給も
ひさしくなりぬれとそこらのはてにてきこと行ひるやうみて
うちたくさ給　故文殿りしましせと　宋常陸宮乃
はさ世のけうとと行うれとのんやうさんせそと
をそうひしさとも
とひさうちぬるくあるうとあり　細　夏嶺　何　世中とうしやハけもとへとと
ひさうとうるふとあるぬハ
けうなる夏嶺の出方のれる夏也　宋　みるひあるる心也
そくやちとひくく出とうあるとうしられてそれな
れ　宋　をりややさんや原のほとをとうくんや
伯原ハ春流よりうとうとうかうくはけハりうをう
ひうくあやしう　宋　春流　細　伯原ハある時ぬ秋の月まれ里入夏頃しんや春流

雅　宋　伯原ハ春流　何　雅　細　乃原ハ春流　何　雅　細　乃原ハ春流　何　雅　細　乃

わすれうもれぬるとやうるてこころうとぬへきさま
をいとひもきとくうみくはのそへるそとそにわ
はもと　宋　人はるへちとのはるとてはしるに
ひもれとてそへるをはるに情との源乃人也
うしてあをぬるきしきれやうしてはうはをはて
きへの系教の雪とはんはをあるはもちるくく
とあきわうとてはみしうさしきるに　細　人ともま
ぬさ海也　宋　源の秋ますうこもとのはうと幸（レン）別（ラツ）
にされうこうてはるさ海也
あり出てゆうむとあられはくはとありもて
て侍海あしんもちとうにそるれはうはれたるとの也
はうしさはとのそもはんはつきをぬはんのをうてそうと
あをれと恨やすしはみ　細　源の秋はをれうしうもはへ

うとも也　宋　源氏の赤橋よ出而白雪はんはへとのんき
うちとうくはんはくんとの心よはうう
まさはのうきをれと雪乃出るに　河　衡黒（ホノクロシ）
はうしさうにわうはしはを　細　源乃侍さ海也
はへんもろこはうてはんもる　宋　あるはへをとも也
をやうてはを行へあちきるしんはくはきそるとと
をやはあきとさはふへのやはあるとうとひ行はあはは心
みてうはうひきはくうひくあはは出はうう　細　ちに紅作
乃へとのうも　宋　源氏の赤橋よ之出はて雪と
も侍はんせうとも

はんぬやうみくとのうきとあはつれとちうとめへうそあはは
はうふそ　細　源也　宋　源氏の侍めはうひも
うちとをうはとのはうさうもあはうはれうんとははも

あれもちるはんちりや　細　源の郭公ものやをぶく
こゑなくや
まれにあるものそうう　細　えうと赤痛のまう病とうり悪
皆　脚絡こうきると
をせるもにんこと弱ようさんれてよやもむとつれぬ　宋せたるる
とのちるれんちや
うちつきてあるかくうとみるものハたくれるり者つとあ
とめるまう新　宋　うちはくうさてや
細　くんはさちのれりとれりはやはもーうきうのひく
たにされちうさもそーたちるてたとちとちはり
ちうくてあり　河　善賢善薩乗大白象鼻如意蓮花
色　観善賢経
こハ雲ちつーうちうて　宋　雲ちるつまーーさとのんや

ひまりとにこのちちうさしはめぬちとくいちり
さ紙ー　宋　ちちさとりんや　河　小まちさハめて白ちさちあ
ちくみあるやあとちさまてやありうこと所説同　細　小まや
ちりちいつちさちれうくれちるに　河　時あるやこハ額たれ
んや或　壇こく
あ紙ーちうちたるはやうハおるくちとろくしうるれ
るるくーやを行るるりいとれりをに　宋　ひくハのくれちると
あるに射ーてるとくーちうちとハ鼻のたちれしや
はやうハりのやうちいとこと云んや
ちうはんくうの行ると　河　髭　荘子　和　やをてうくく
やちるや
いるをとるまりてちあちうてにみあるるみくあうちるうんあう
りはーんやをりあちうちうくーさ海のちれくさすに

うちうへやしきを給　冥　いくばくかうるわしき骨をうるるていも
をてつてをうこのうるとりしを　何　陽也　ちうり陽因りの也
冥　をつりをそこをと云也　赤橋の法名をしれる也　陽清　清濁　あ法也
ふりしきにめてをしやと思ゆるくてみるおさくをとるま
しうちさのをとをにをまるをて法をあるを祝一人をうり
ほをまるをををんやをみのをさ行るををとをちへひをうるを
冥　義意義とうるをとのをりの也
物ひをちれをやうをれを　冥　法式をう行のんをを乃出祝也
ひをり物語みをもんの法ちをうくをとををはまりひををめれ
冥　ひりまの物語といるをりを也別りるの也
ゆをりをりるををうををまををみをるひをうちり　元　を業
おを法ハ法ををを禁色をりををりををりをりをりをを
云制禁に及をを法をを用をるを故也常に人の心を

あるハ禁ををみくををやををくをを用をひゆるをれて用新
故を法をを敵色を云流ハあやまるをやゆをりををのをを
ををりををあるりををの落をひるんを　野　あの落ををを
細　光　落あの法祝をひをり
冥　落をををりをををを祝ををくを　何　御をを大小男　意
元　或説云女房ハをををるるを
御　大小ひりり小御ハ官一乃人或ハあるりるをのをるるを
りをををのをりをに表ををを小御ををるすをハ法用
をををを新ハあをりををりををりををハ業のをれ
をりをりるをを　細　をりををハ法のりりりりをり
新也　冥　ほりりるを祝ををれを後をりりをををるる
ををりり
をををををるを祝のをををををををををををををををををを

ゑ[illegible]ゝ　何　貂蟬　貂　和名てんと云獸也　如蟬とゝ

拾遺曰　中宮　安子　御ゑ[illegible]さのうちきぬとゝるえんおの入道

横川ゝ行幸あるに清ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

そそろれるはるさも
いとわりくはるれみてくいとくいそ死ぬ　細　源のかも
そのまもきさんるれはるをさ海とうんそめあるんへよハうとくくう
もとうひもうひ行りんてそはいを心ちもへそれゆるもちた
はるくさるれんはくうるとをとうをて　細　源の利
笑　そそうもとるれへとるれ行へと我をもうひ行うんと云に
来橋のんをゆるも行をあるくぬもこうはくさをもとうをて
やをんううをもは仕はを源氏乃はんも
朝日はをとのるるひはをあるくもとうあれもをはるを
元　あさひやあさはうらにはくくん新るさるれ下の玉
弁　をもとるくくれむをとるるやをよはるくの乃う
をさるやうあるへし　細　来橋のををるくれむをはれ
あるれのわるとをもみをを見るを南花をを新のさるひ

のれをもて病はをれもはまをを乃るさ海も
笑　源乃はるくをあるひををとくくそれはををるに来
橋乃心をはるをてはるくのやうにはまるむをはれをを
行をあををとくくるも
やの行をとたくむやをうるくくはをくくはをるもをたる
もはをとれくくれをて行ぬはを車うをるを中つのはをはるう
ゆるむるうはひく　むやをうるくくはを　笑　はをとるをれあ
うく新来橋乃をはも
はるふくををるれあるくくをもるけかくはるくあるををと学はう
つををれはをと家はひをくくあれくをとるに　はるはるくをる
をはるををる者。上白来歌　笑　新乃はを花をるはは乃
やをるれをるくくくくをるるををあるをををひるくまるれをを
あれあるをも

松の雪をはらはんとてうちをゝくるうつゝ山里のさともとゝ物
ゝ長ちゝ紙　河　動松歌嚴寒（ゲイセンアラシ　セイカン）

八松性のほうとうちゝ枝をゝ眼ゝ物ゝ雪とゝ
雪にうゝとゝる雪ハあゝしくにみゆゝも　そ　本山ゝ
松の雪ゝに法ゝくに都ハ四ゝ雪の葉ハ雪ゝ
と業松乃雪ゝ白紙綿と見ゝやうもゝ
あゝゝ雪も　細　只雪の物ゝ
の枝のいひ　むゝ紙門ハゝゝ
ゝゝゝ

と云也

何 我袖は乃に云しもとゝの松山をうつと云れたるこゝ

元 浦ちゝゝゝゝとくる雪は云しゝゝ波の来れ松山ちんとゝて乃に

野 花の浦をくゝゝゝ所、此ゝあり仏河のちゝみるやうに云

て我袖は乃奇れ和と乃

乃中に乃袖乃奇れ付けり

いとゝゝゝゝ

あさの神八幡の神也　細　此義の神うとをとるく
乃行ぬれとけるとも也あさ乃神八幡の神也
宗　源氏の系也義の門らけ者にをとる寸源の義乃清神
を始るを演義乃
つ化ものをかるちうれをを打もく行てをれのをり
出てをとけ也をとるる法ものをを出くれて
ほをとをを行ほををれをとをくんけをれるをを
をををんをんつにうをひをれハつまをつををれをんと
河　夜深煙火尽　霰雪白粉々　幼者形不蔽
老者體無温　悲端与寒氣　併入鼻中辛
白氏秦中吟　幼者形不蔽老者体云温とをを
幼者とをとをりををるををををを老ををと義をた
ををををと神云温とをんをんとて失損を失をを入く

もくをををる也　弄　打音雪の詩を吟乃也一注文集
雪の夕を作まる白也　細　秦中吟を引をををを古来
兵氏義乃をを後を頃しを行をを斗ん乃行ををれを光を
をををく八幡をくをる板也まに用失をくを乃を
ををを行ををををを行乃氣んををを也をを
二人ををて乃をを人をを也氏灯を行をく地をををを
くををを行をを氏義ををを乃をく頃しを行をを
乃をくをを氏をれを秦中吟を乃神源煙火盆霰雪
白粉々幼者形不蔽と云をを行をを乃を
をを人をを乃を
をの乃をを乃をを乃をを乃を行を乃を
をををを乃を乃を乃を乃を乃を乃を乃を
て　細　源乃性弁搭也　宗　大まれ悪義板をを人を行を

をとろうとねらも光ハ源氏ハ行て八一向よそうとも
あるまうくれた義よりひ行との清んや
ゆあやうれるちうにつひをとはきを結ゆうたの叫てあく
ぬきぬあやうるとおいんくるものうんきぬのそうひれ
はきれりたあまてうしもはしやうてたてうう結
花 ふうくうさみうきをしう結也上ゆもに代初ハうくうや
うやうれうあやうるもをうくうをあくうぬとんやうく
細 末橋の性也 栄あうやうれるうてうをしう結へうも末
橋ハうくうとも思ハ結うんやうれとも
ちうるうのうくうあくうくうまんと結ゆしううて
栄 弱常の中ハうくうあくうて光ハ第不兵ゆ法
きうすうるのうくうとやうや
うゆうをとはうさもしう結ゆりうのう

つをくのうちとをうるうくうしうるうそんめうてとうるう
しうくうちはうるれとまてうるうにかくうれてうちはう
うハはうくうとうきうう 栄 末橋乃数ゆや
はとうるんきはとうんりやハ 栄 言葉ゆ末橋乃はとうは結
うんんうとも
きうううれゆうとうぬはうさあうり市うと心うをのあうくうに
結うくうをうるうしを 栄 人の極形ハ極性ゆううぬはとも
ゆうをてやうくうれとはのはうとうにハははしはうし
とううきぬ 栄 言葉のあうくうにううはきうあうれ
う結うくうを源氏乃ゆをてやう結とのんや
はの度ハてあうはりうゆうをうて市の命はゆいきうと
細 源十八乃年九四月也 栄 源氏の禁中ゆとのあわや
法ゆううくうるとに市ううとはうはうあうゆ心ゆうゆ

物のちかうにの行ひをさとりてはらひあらく行へ
き事なれども世間を学ぶへき事なるなとはまこのかを
学り　宗　命婦よをちらしたれをちらみてあらてんやをくを
ゆへとよをとりれちとの行也也引めてをきれつ
福のくはいをまいりうぬとも
ほやしきとの行るを学ぶ市をさんをひろくしう之行
へきをひくをはくをてゆをしやらぬを　細　命婦の初
ちふ様乃事をとををはくむるあらをををんをう
との行へも　宗　源氏の侍初也
いうくはみうくれくをへをうくやををかてをはくれを
さをくをさをみうををあんと　まうををはと様をるへ
宗　命婦の初也行う事をはとあらくはををををををはちくを
あるへきをををりをはんとを也

いうう事こめられも　宗　事物をををこめてやうをたるや
きいのをうんちるををみうくをはをを　宗　命婦　好をこの心みうく色
はをりををりう乃宮をうをを行うはををををををををををををう　細　常陸宮
ををををり
はをれをををををををををををを

[illegible]集
[illegible]我源乃つ[illegible]ん[illegible]こ[illegible]
今業[illegible]
[illegible]
[illegible]

れてそはてけりこの詞ともとりそらしとあめれ　系　前の清涼
は侍従ゝはうりもとに詠ゝれはいとゝ未摘のあそりゝ
ゝりもれしめ式ゝ侍従とゝ奇ゝとゝ侍みゝをはそゝ
るは跡との事也
伊勢ゝそはゝりもとに紙をゝめれ　系　前の清涼とゝ伊勢
そゝりをつゝんゝれはみつゝれはゝ前ゝ侍ゝ紙との也
又筆のゝりもとゝ紙ゝりをゝあゝ紙とゝ侍ゝ
とはゝしてゝゝ出侍ゝん紙を　細　ゝりをとゝ紙
通の所とゝ成へゝしゝとゝゝ侍ゝりゝゝ
也　系　侍ゝりゝ紙のゝ紙とゝ
いとゝりゝ紙ゝとゝゝれゝゝゝりゝゝ
見侍ゝ紙　系　ゝりゝ紙とゝ
ゝゝ筆ゝ紙也

命婦はゝてゝゝゝゝゝゝる　河　恒忠　系カタム　千　注記物
いゝやゝゝとのゝえゝゝゝゝゝくゝはゝゝゝゝゝゝゝ
元　系　花物語云はゝ内親王ゝ梅ナニとゝゝゝゝゝゝ
ゝとゝ中納ゝの屏ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
しのゝ枝ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
しゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ梅ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
梅ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ枝ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
しゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ

しるとうきをうと面白とやあれ沙人よとやうとて八云也
万代しれくうへひとくうくやうれるいと河 表裏(オモテウラ)同これ
濃也色と舊(キウキ)俗色 花よりいろと根といふなとと云也
ひるとくとと根とのうしろなて回るるとと云ふや
俗 万代しとくとあるよ流くるや面白の五色とそ万とくれと古
みてうくおもてるの五色あるとと也 采 ちくやうれ
るうれとのんや
おとくしうはくくそ万とくあるあさまし也おもはとに
のうくとひろをるるくる 采 ひてとるくるれてあるや
くくみてるくひとくひ形とくひとくみ万れと
文 赤橋うるとのうくよりも習形やふ云ふとあそうくるると
今梅うそくめふ万てるるとや
ちくくきんとよるに万ところうとるうに花と沙よるれくむ

河万人九
古 人きるひ四へくくるくあるうすえはむ花のうくいてもん
源氏後梅のひとるととるるへくく 九 源氏月代云号代宮
花 采 赤橋のるるとうるる形よるうくくいと形とあぬるう
花よ池とるれ形とのんや源氏乃云也
とうれ花とうくうとるるとうれきう形
河とうあうくくめくくんとたのまるとあるうくあくあらはるてるるう
万のうきうれ花とうんうとうくくく

命婦の花もてるや

わるとしれ月ゐをるとどにとわ行さ物ゐ〜ゐ〜ゐ〜

細 春雨うんぬん

をりてそんずるよりのそのはなをたづねく　笑　葉中みてるあるをの

そのやどは源氏のうたにのるたれ行とも

うちやはぬのうちうちまきの　花　くりやくりやさとてあをたちくちんぬ

細 くりやさとはちかくに云詞也

ちやくしをぞうしくしたるとして有をたづくうみ唐さちち

ぬるあるをんと梅ちくに　花　うやうの種地名伝へしるとと

ぬるをんと梅ちくに　細　花るるみて

ぬるちくしたるを金地とのたぬ也

ちたちすくさるとにうまを迎ととんでくこと常法

宮の言伝さしもくしたるとと源氏のありくしるぬ

をくに梅乃花のたれとみるさの山れとをとしもてくをう

ふしすくふしぬるとと　河　求る言やを云日社みくいみち

さの山とうを修法みくいを言をたとをくみやを

花四云 風信ちくらめとあるとをくをくら梅の花ぬ

一勅云たくむめの花と云人ををくらあとあやまるて

後るあるうらみをうもくに行るゆつにあやまれるやム

芝乃山のしみをとをくやは源の四よ常陸ちのしやと

いひをくをとくうとて可くの行也　琴　をく梅むれを

乃ち風信と花るあるうり奥入をて求るの言やをみぬめ

求る殘河　舞　をて東梅　をあると風信は別のるやを

一説可為又口変を四云求る此和歌をひをて云うを

風信と求るとを別ちるるうひを求るは東梅ぬとみる

一勅合歌　第　をて云風信は別のるや

細

もとめるの初也源氏の口ずさむ也求るにを云日をくを

芝芝の山乃とうをひ花ぬみくはををかくとかててうを

山也源の心よ宴みくはをうちのうをみ乃とうをひを山ひ

ゑ也鼻のことゝ所ゝて云ゝ也代表抜也
命梅ハとゝ所ゝ也四ツ目命梅ハんゝ所ゝくゝ所ゝと
笑 さ奇うゝひ孫と鼻のちゝゝ云ゝ也
んゝゝぬんゝあゝて活ひとゝとゝハやゝとゝめあゝて
元 源氏のひとゝとゝわゝゝひゝゝ孫と未橋ゝゝとゝゝゝぬを
ゝゝゝゝ所やゝゝゝゝゝゝ也 細 源の独ゝゝゝとんゝくゝ所や
ゝゝゝゝゝゝ也 笑 命梅ゝゝゝゝゝゝ
あゝゝゝやゝむゝ家好ゝのゝれゝゝゝこのゝゝゝゝれのゝゝあゝひやゝん
ゝゝゝゝん活ゝゝゝゝゝゝのゝゝと所ゝゝゝゝとゝゝゝ 河 光ゝゝさ
ゝゝ奇れんゝゝ可動ゝ孫ゝゝゝゝゝゝ

ほうらうちちうきすれば仏中みそみのりるをとをみさめう
元 光又一人の女房れ初めたるとの命婦肥後の家めそうか
あるさ女也仏二人のおうもやそうとんちうぬ人云
ありり 細 ちあてかくの給とうう
仏中みて 細 作と仏中みそ鼻の赤さんとちれう
とも光人尊の間や宮ようたれあるさんとあれ
とも也
たとの命婦ひこうう給やまうらひうんるとんとえた
ひしうう 細 仏二人の女房鼻あるさんも 采同
はううたてううれたうやみそ女房つとひてをめてを
つと 采 赤橋へ保の時五宮と為婦なるも
あうぬ松とたてうる中れ宮ひにうう給ていうんもみそうや
元 宮ふ中にあるもいうとうれはうる松とたへ陽ぬるれ

と業ひんもみそうやい松とたへんとうんあう
ううぬくいうくはうひくをうてあるも 細 人はいうくへ
たううと松はさ中とううにうう宮えうんのはうう者れ
うちとるをうてあるうう陽ようはれうう心れをうてと
ううもやあるううも結白はあるとたへんとよと
たんも加さ給ていうくはうぬくをうてたるも
采 蔵ぎはうぬ松とうう作ひをうて宮ううひようたて
んとの心ようへ
たううさううにをうてうう給うるうもを中うくれううをたる
はうこもうとの日夕はうう 采 ちをやりに宮給とたうのうも
采の時宮をうに 采 赤橋ううの宮為也
作まううと人のなれるはううたへひうく 元 保の時めうはう
うてんうはううせうは 采 さぬとうれうう赤橋のう

人頃つと孫ゝる也
ゝひそめれ　河　蒲陶　葡萄　和名にあるこのはゝる也
とも地の浮ゝる山吹ゝ也ふそてゝ尺ゝて命婦ゝ
ゝゝ　呆　袁は黄袁は赤也
あゝゝゝとはひとゝゝゝゝやゝ孫ゝると思ゝて彩れとゝ
思ゝゝゝ石のゆもゝしゝゝゝゝゝやゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
呆　来橋ゝゝと孫ゝゝゝゝと孫のゝゝゝと尺孫ゝんとゝ
ゝゝゝ思ゝゝゝゝ也
孫ひゝゝゝは孫ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ちゝとゝ男踏ゑ也そゝれとゝあてう道代を
給くちゝとゝ代よゝ社業業としてゝと踏ゑを
なるゝとゝう 元 男・踏（ふまはしり）ゑハ正月十四日れる也初る業
みちゝをきるひへゝ
さしゝきゝの袁よりゝやゝるれて 細 常陸宮也
あぬゝの日乃せちゝをゝくゝ和ゝいゝとて 河 天武天皇十
年正月七日清四ゝ度宴 并 白馬ゝ見るゝとゝれ
ゝる加へゝ 宋 白馬（あをうま）也 苦ハ昼今ハ和也
清涼ゝとゝて給ゝる也 宋 天ゝよ限ゝくゝ也
もこせんと読へゝ
はゝこのゝ和ゝるゝやゝとゝゝるゝ給ゝゝるゝやゝみゝく和ゝゝゝて
ゝゝゝるゝとゝ也ゝゝゝ

ぬほどめてそ〜　宋　未橋の所まや
わひるをとうんいてそ〜ん河とおほされてう〜ひさ所を
をう　宋　未橋のおひあをとをとてとも
いとわ〜〜うる〜ゆうるに　光　仏わ〜さハ〜とに〜笑る
とをうや未橋とうん所〜う〜〜ゆしるとゆるとハうも
あをもをて行うて　細　ムトはく光あるう光法橋ゆる
るへ〜との法震度るとのをとを光も
ゆうをくをしうをてうちうをて　芳　ちたみうしと月
うゆ行次へ〜ムトはくさたる橋る服見ゆをきん
事をうとうへくをも位ゆるう〜に一移勤
宋　うしとをう〜ゆをて服見ゆをもゆる也未橋ゆ
さ面とのそ光行神也
法ひんくさの法をる光とはくゆうひ移也

めへそる　宋　源氏のひんとはくゆうひ移也
うやう〜ハうく〜をうゆ光ゆをとる光ゆて〜う所を
光にゆとをこのはくをへはのくあるとゆをて〜ゆ〜ゆ移
河　鏡堂唐更撥上函　撥髮ノ具也　ハタルモノナリ
ハゆうをも　細　ケ橋の法月具ハ故官の法ゆるへ〜
とん方の法ゆうをくゆをいとうををゆをとゆ移ゆ
光　未橋のをゆ法ゆをうのをひるゆ法源氏の移移ひ〜
衣裳とはれ〜〜移ゆる故也
かのあるう〜をこのうゆををうう〜ゆるを所也
ゆりう〜ゆをゆ　けうあ　ゆ　ゆんつをゆをゆをゆ光ゆる
ゆあや〜とハゆ〜ゆるゆう〜ゆをゆ〜ゆをゆ
をう〜　光　仏一段の河流とあると一ゆも源氏の移移ゆうを移
の中にゆ移ゆをゆをゆるとゆをゆ移ゆ一ゆ表

若しるし来橋のうに志てられるとかゝくしくゐ
路也 細 あるゝ〳〵ことのとハ昭日原ゝうきまゝ衣震
やうとなゆ〳〵ゝうゝひとゝ云まてとよゝはくて月ゝ〳〵
保式の人ゝもゝ原のはゝうさゝうるものゝうねゝうゝと志国し
路とハゝゝゝゝくゝゝくゝとゝ仏宮ハさやゝのゝくさハ仏ゝとゝ
之路ハゝるとゝ也ゝゝあるめんつゝてとハ宗る二説あり共
可申也 宋 原氏ハ我はゝくゝさゝうるとゝゝうたる衣震牛
とめ〳〵ゝ毛ゝ空ハゝゝり〳〵めゝ〳〵ゝゝすゝれゝゝゝうゝゝ
ハゝゝうゝあるゝゝんゝゝくゝゝうゝゝゝる紀ゝゝゝゝ

末

新へさうやうと 細 おなじ引歌のあとに又菓子のふ
四とみくの奇のくを面白うるへし
くちはかひのそこめうるかとる紙のをこうむ元いとうか
ひやくにはしへてうとんくるとやとはしらは
栄 菓子をはり能みくうはとうしに張板也
二条院より打つ〜られしむくさに元のえいとをけくき
栄 源の清出也 寛元十一月より始まる年九月の
さ面也 源氏十八巻なるへし
さはひふく 栄 打さるに人のうさるはりたるはくも
くれぬ井ハうるつ〜くうとあるとはりやみやうに
元 菓子のうも面ハ新とうも 尋出しのさあるうも
細 元るの義ハ〜只さぬのうのあるへし
むもんのさくれほそるあくにさるてあはくろ

をうくてあのしはちくはうくくうくのあを
元のはをはふく 行 梅をこハ表ハうすく裏ハうに蘇芳也
ほそるうハ幼少のまを女ハうをとるを也 細 これくくさ
るへし 栄 打るとあを也
くくろあをまくくうくをるを 元 山海経云東海ニ有ニ黄
歯玉 其俗婦人歯忠孝深と菓日本ハ東海ニ有中
のあを彼俗ニ有くはや苦ハうとさるに女ハたたるく
うをとつをされて古代のあをのあくうくみて出のの
姫元を十菓よあまるもてくくろめをあうもし
初さはくくろくを行てれて 元 ひるをとつを行るを人
栄 正月のまくくよくをとつを行と見てくる
まものあをやにのうそるをとうけてくくくくあうん
くくるとくくくさせとんあけくみくん 栄 元くろめまを行

てらさぬるや

かく心ゑるまきものとおもひてくるあるてとおもひてまきの
まつとともにをいるあるひしの絵 花 花八末橋のもの也
源の部くるくる末橋のやうにかくるまきくるくるとあるし
あけくれのやうにもあるくるくるく

ちぬやうよの給ふ也
まるとてのこひ給へし　紫式部　源氏
給ふとゝまれるめのあにみちのくにこと申ゝてのこひ給へ
しをいらうやうにこそ給へ給ふ
河　宇治大納言物語云平仲久八女のもとに行てをくまね
をして歌ろれへと申ところよもらくめとあんぬし
ゆるとあ四ゝて墨とゝりへそるとあるとてよぬ
らゝれハ此院とんをてよめるうれにそはゝさハ見
ゐ今ゝれともへるよゝ此よ大和物語よ
もはるあると　源氏　人ゝよもゝ
つゝむとてゐ給ひ給ふ
花　平仲平宣文うあさあり
平　河内女みゝ歌ゐ紙とひゝてやゝとゝ

平仲ゝ梅ゝあるゝ
四仲の字ゝるとてゝむ也一云歌
あゝくらんハあんゝとゝゝ給ふ　ロあゝあんと云是
源氏　あゝさうゝゝゝゝゝをいゝゝゝゝゝハせめてゐゝんこの
いとゝゝゝゝゝゝをとんゝ行ゝゝ日のいとゝゝゝゝゝゝゝ
しゝをゝゝゝゝゝ本をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
河　いゝをいゝゝゝゝゝとゝゝ侍特語侍特冊ゝ花牙
ゝゝめて美姫と成給しにゝるとて美姫とゝゝをゝ
梅ハ八ゝさゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

花 仁和寺河乃殿幸次幸八条院ニ為院宮下向興之使御
造階隠(ツクルハシカクシ)そく本殿王記ニハ天喜六年也と条南階
のもにてくらと二そくとるたてくんとくく
しやゝ風聲(ホウセイ)と記ん〜ひさにうきをくたのもれ
ちと条院下向あくんなり
和の花うゝやうくくとまるむめのそちくんハるつゝき
也と 宋 末橋の鼻ハあくらにやうくくられて弱雪れあるの花
ものてうとくく思るさるくやゝ也梅乃橋ハるつゝくれと也
いてやとはいるくうちうめうも也 宋あせくゝやと云也
あるいとくくく